

HOKUSAI

Katsushika Hokusai and Taito Periods

永田コレクションの全貌公開〈二章〉

北斎「葛飾北斎期」・「戴斗期」編

よわい
年齢46からの大ブレイク！前人未到の版本世界！！

プレスリリース
PRESS RELEASE

2025.9/10(水) - 11/3(月祝)



島根県立美術館

開催概要

2017年度、鳥根県津和野町出身の北斎研究者・永田生慈氏^{ながたせいじ}(1951－2018)より、北斎とその門人の作品・資料2,398件が鳥根県へ寄贈されました。この「永田コレクション」は、北斎に関する個人コレクションとしては世界屈指の規模を誇ると共に、北斎研究上、極めて貴重な作品や資料の宝庫であり、当館では、全四章の展覧会を通じて、その全貌を公開します。本展はその〈二章〉として、北斎の46歳^(*)から60歳頃まで、主に用いた画号から「葛飾北斎期」・「戴斗期」とよばれる時期の作品を紹介します。^{(*)年齢は全て概年}

北斎は40代半ば、今日広く知られている画号・「葛飾北斎」を名のり、「読本」^{よみほん}(長編小説)の挿絵を精力的に描きました。曲亭馬琴作^{まことけいばきん}の『新編水滸画伝』^{しんぺんすいこがでん}、『椿説弓張月』^{ちんせつゆみはりつき}等の大ヒットを通じて声名を高め、北斎は浮世絵界に確固たる地位を築くこととなります。50代に入った北斎は次いで「戴斗」と号し、次第に門人や私淑者に向けた「絵手本」^{えてほん}の刊行に傾注するようになります。森羅万象を描き尽くした北斎畢生の代表作・『北斎漫画』^{ひっさい}(初編から十編まで)はまさにこの時期に描かれました。ほくさいまんが

「永田コレクション」には、「葛飾北斎期」で約450件、「戴斗期」で約200件の作品が収められており、本展ではその中から、錦絵、摺物、版本、肉筆画の各分野の作品を一挙公開します(前・後期で展示替え有)。特に北斎が当該期に手がけた読本と絵手本の作品については、細大漏らさず展示します。この両版本で第一人者となった北斎が魅せる、圧巻の「版本世界」^{ブックワールド}を、ぜひご堪能ください!



展覧会基本情報

展覧会名	永田コレクションの全貌公開〈二章〉北斎－「葛飾北斎期」「戴斗期」編
会期	2025年9月10日(水)～11月3日(月・祝)【48日間】 [前期]9/10(水)～10/5(日)／[後期]10/8(水)～11/3(月・祝) <small>※前・後期で錦絵と摺物は全点展示替え、版本は展示箇所を変更し、肉筆画は過期展示</small>
開館時間	[9月]10:00～日没後30分(展示室への入場は日没時刻まで) [10～11月]10:00～18:30(展示室への入場は18:00まで)
休館日	火曜日(ただし9/23は開館)
会場	鳥根県立美術館
観覧料	[オンラインチケット・前売券] 一般:北斎展・コレクション展セット900円／大学生:北斎展・コレクション展セット600円 [当日券] 一般:北斎展1,000(800)円／北斎展・コレクション展セット1,150(920)円 大学生:北斎展 600(450)円／北斎展・コレクション展セット 700(530)円 小中高生:無料 <small>●オンラインチケット・前売券は2025年夏頃から販売予定 ●オンラインチケットはホームページより、前売券はローソン各店にてお求めいただけます ●()内は20名以上の団体料金 ●身体障害者手帳(障害者手帳アプリ:ミライロID)、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、被爆者健康手帳をお持ちの方、及びその付添の方は無料</small>

「永田コレクション」とは？

島根県津和野町出身の北斎研究者、永田生慈氏(1951-2018)が自身の研究のために蒐集した北斎に関するコレクションで、2017年度に島根県へ寄贈されました。

特徴1 コレクション総数は約2,400件!

北斎の作品だけで約1,500件、門人や関連資料を含めると約2,400件を数える壮大なコレクションです。(詳細は[別表]の通り)

特徴2 北斎の各年代の代表作を網羅

北斎が浮世絵界にデビューした数え20歳から亡くなる90歳まで、約70年間の各年代における代表作[参考図1]を網羅しています。一つのコレクションで北斎の人生を通覧できるのは、世界的にも極めて希有なことです。

特徴3 世界に1点のみの貴重な作品・資料が多数

北斎画業初期の肉筆画で「春朗」の署名を有す肉筆画としては現存唯一《鍾馗図》[参考図2]、北斎が亡くなった朝、娘の応為が門人に宛てた死亡通知書[参考図3]など、現存が世界で1点しか確認されていない貴重な作品・資料の宝庫です。

これらの特徴から「永田コレクション」は、北斎に特化した個人コレクションとしては世界最大規模と評されています。なお、本コレクションは永田氏の遺志により、島根県立美術館(松江市)と島根県立石見美術館(益田市)でのみ公開が許可されており、「県外不出」のコレクションでもあります。



「永田コレクション」全貌公開に向けて

島根県立美術館では、この壮大なコレクションの全貌を公開するため、下記のような内容・スケジュールで展覧会を開催します。

20 35 歳頃	春朗期	様々な画派を学び、多種多様な画題に取り組んだ習作期	永田コレクションの全貌公開 〈一章〉
35 46 歳頃	宗理期	叙情的な表現で豪華な狂歌摺物や狂歌本の世界で活躍	2023年 2/3~3/26 (開催済)
46 51 歳頃	葛飾北斎期	「葛飾北斎」の画名で読本挿絵の第一人者へ	永田コレクションの全貌公開 〈二章〉
51 60 歳頃	戴斗期	「北斎漫画」など多種多様な絵手本への傾注	2025年 9/10~11/3

永田生慈 (1951-2018)

島根県津和野町出身の北斎研究者。元・太田記念美術館副館長兼学芸部長(2008年退任)。1990年、津和野町に自身のコレクションを中心とした葛飾北斎美術館を開館(2015年閉館)。北斎に関する数多くの論文・主著・編著を執筆し、国内外で多くの北斎展の監修を務めた。2016年、フランスの芸術文化勲章オフィシエを受章。2017年、所蔵するコレクション2,398件を島根県へ寄贈。翌2018年2月6日逝去(享年66)。



【別表】「永田コレクション」内訳

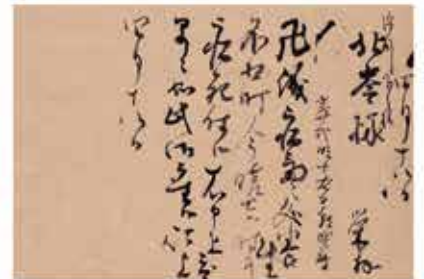
分野	件数
北斎の錦絵	約450件
北斎の摺物	約300件
北斎の版本	約720件
北斎の肉筆画	約60件
北斎門人の版画	約450件
北斎門人の肉筆画	約150件
関連資料ほか	約270件



【参考図1】《富嶽三十六景 山下白雨》(永田コレクション)



【参考図2】《鍾馗図》(永田コレクション)



【参考図3】葛飾店為「北斎宛北斎死亡通知」(永田コレクション・府川家資料)

61 74 歳頃	為一期	豪華摺物と《富嶽三十六景》など錦絵の時代	永田コレクションの全貌公開 〈三章〉
75 90 歳頃	画狂老人祀期	動植物や和漢の故事などを題材とした肉筆画の時代	2027年 9月~11月頃 (予定)
	北斎と門人たち	蹄斎北馬、魚屋北溪、柳々居辰斎、高井鴻山など、北斎に学んだ個性豊かな「葛飾派」の絵師たちを紹介します	永田コレクションの全貌公開 〈四章〉
	北斎の全画業	浮世絵界にデビューした20歳から亡くなる90歳まで、70年に及ぶ北斎の全画業を紹介します	永田コレクションの全貌公開 〈終章〉
			2031年 (予定)

(※年齢は全て数え年)

本展で見られる 「葛飾北斎期」とは？

北斎の
46～
51歳頃



読本挿絵の第一人者へ

文化二年(1805)、北斎は「葛飾北斎」の画名を用いるようになり、この頃から「読本」(文章主体の長編小説)の挿絵に精力を傾けるようになります。曲亭馬琴や柳亭種彦ら当代一流の戯作者と提携した読本挿絵を毎年描いており、中でも馬琴と組んだ『新編水滸画伝』[図①]、『椿説弓張月』[図②]などは、北斎生涯の代表作に挙げられています。

魅力的なキャラクター設定、力強くも緻密な描写、明暗や効果線を活かした劇的な構図など、北斎は様々な創意工夫を凝らし、読本挿絵の芸術性を一躍高めました。当時の記録にも、北斎の挿絵によって絵入り読本が大流行した、と記されたほどです。北斎はこの分野の第一人者となり、生涯で200冊近くの読本に、膨大な数の挿絵を寄せています。

またこの時期には、他の分野でも万遍なく作例があり、錦絵では「東海道五十三次」を題材とした揃物を多く手がけた他、名所絵、戯画[図③]、おもちゃ絵[図④]など幅広く描き、摺物[図⑤]でも、優美で洗練された作品をのこしています。肉筆画[図⑥]も最晩年頃に次いで多彩、多作な時期です。

KATSUSHIKA HOKUSAI period



【図①】『新編水滸画伝 初編初帙』
(しんぺんすいこがでん しよへんしよちゆ)

「葛飾北斎」の画名で北斎が46歳で手がけた読本挿絵。
「葛飾北斎」の大ブレイクはここから始まりました



【図②】『椿説弓張月 前編』(ちんせつゆみはりづき ぜんぺん)

北斎読本の代表作の一つ。永田コレクションの本書は希少な初摺本(初版)で保存状態完好な逸品です



【図③】
《鳥羽絵集 桑仙人》
(とばえしゆう くめせんじん)

北斎はユーモアや風刺を利かせた戯画も得意。本図は現存が他に確認されていない希少な作品です



【図④】《しんぼくミあけとらうふ ゆやしんミセのづ》
(しんぼくみあげとらうふゆやしんみせのづ)

切って貼って組み立てると湯屋(左下)になる「組上絵」というおもちゃ絵。全図(5図)揃いで遺存する極めて希少な例です



【図⑤】《鏡美人》(かがみびじん)



【図⑥】《大黒に二股大根図》
(だいこくにふたまただいこんず)

版画ではなく筆で描かれた肉筆の作品。「葛飾北斎期」を代表する肉筆画の一つです

画像提供のご希望がございましたら各作品画像の数字[図〇]をお知らせください

本展で見られる
「戴斗期」とは？

北斎の
51～
60歳頃



絵手本への傾注

TAITO period

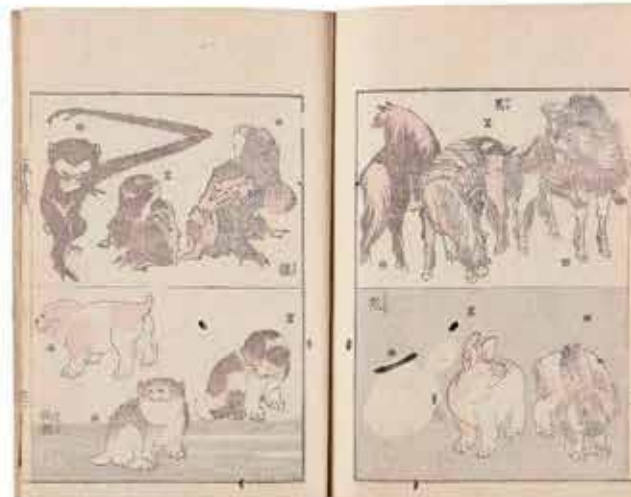
文化七年(1810)から「戴斗」を号すようになった北斎は、次第に読本挿絵から離れ、「絵手本」の制作に傾注するようになります。絵手本とは絵を学ぶ際の手本となる版本で、北斎は戴斗期以降、終生この分野に取り組み、数多くの絵手本を発表しました。その内容も、具体的な描法を示す教本[図⑦]、多くの絵をまとめた画集[図⑧]、工芸職人のための図案集など、多岐にわたります。

数ある北斎絵手本を代表するのが、文化十一年(1814)から刊行が始まった『北斎漫画』[図⑨⑩]です。全十五編(戴斗期中に十編まで刊行)にわたって、様々な人物、動植物、建物、日用品、風景、気象など森羅万象を描き尽くし、その総図数は約3,900とされる壮大な画集です。欧米でも早くから知られ、西洋の画家たちに影響を与えました。

こうした絵手本への傾注の反面、他の分野は比較的寡作とされますが、特色ある作品をのこしています。錦絵では、高い視点から東海道や江戸湾を一望する鳥瞰図[図⑪]があり、肉筆画では、細やかな陰影で立体感を表す西洋画法の影響をうかがわせる作品[図⑫]が知られています。



【図⑦】『己痴羣夢多字画尽』(おのがぼかむらむだじえづくし)
北斎が数多く手がけた「絵手本」の記念すべき初作。遺存数が極めて少ない稀観書(きこうしょ)です



【図⑧】『三体画譜』(さんていがふ)
一つのテーマを書道における「真・行・草」のように3種の描法で描き分けた絵手本です



【図⑨】『北斎漫画』(初編) (ほくさいまんが)

様々な人物、動植物、建物、日用品、風景、気象など森羅万象を描き尽くした北斎の代表作



【図⑩】『北斎漫画』(初編) (ほくさいまんが)

永田コレクションには保存状態の良い、希少な初摺本が数多く収められています



【図⑪】『東海道名所一覽』(とうかいどうめいしよいちらん)
驚くほど緻密な大型の版画作品(錦絵)で、東海道の各宿場や名所を鳥瞰図法で描いています

【図⑫】『生首図』(なまくびず)
墨とわずかな色で「明暗」や「立体感」を巧みに捉えており、西洋の描法が強く意識された肉筆画です



本展のみどころ



みどころ1

北斎の「読本」と「絵手本」を細大漏らさずズラッと展示！版本だけで何と500冊以上！！圧巻の北斎・ブックワールド「版本世界」を体感いただける大変貴重な機会です。



【図14】『略画早指南 前編』
(りやくがはやおしえ ぜんぺん)
定規とぶんまわし(コンパス)で、あらゆるものの骨格の捉え方を図解した絵手本



【図13】『恋夢経』(ゆめのうきはし)
幽霊や妖怪を描いた大迫力の「化物絵」は北斎の真骨頂



【図15】『踊独稽古』(おどりのひとりけいこ)
踊りの所作を連続して図解した作品。まるで現代のコマ撮りのアニメーションを見るかのようです

みどころ3

『北斎漫画』の極めて貴重な「板木」、販売当時に版本を包んでいた珍しい「袋」など、研究者のコレクションならではの希少な資料も多数展示します。



【図19】【資料】『北斎漫画』袋
販売当時、『北斎漫画』を包んでいた袋。それもこの袋は初摺本を包んでいた大変貴重な資料です



【図18】【資料】『北斎漫画』板木
『北斎漫画』の初編は文政11年(1828)に再刻(板木を一から作り直すこと)されましたが、この板木は初版(文化11年[1814])の板木です。初版の板木の遺存例は他に知られておらず、極めて貴重な資料です



【お問い合わせ・作品画像の提供について】



〒690-0049 島根県松江市袖師町1-5
TEL:0852-55-4700(4702)
FAX:0852-55-4714

画像提供のご希望がございましたら各作品画像の数字【図〇】をお知らせください

みどころ2



初摺(いわゆる初版)と後摺はこなにも違うの!? 摺の違いを見比べることで、北斎が作画当初に目指した表現世界が分かります！



【図16】『飛騨匠物語』【初摺本】(ひだのたくみものがたり)
背景を墨で潰すことで、姫君の夢の中に貴公子が現れた様子を表現しています



【図17】『飛騨匠物語』【後摺本】(ひだのたくみものがたり)
背景の墨が省略されてしまい、初摺での夢幻世界の表現は失われています



同時期開催

本展と同時期に、島根県立美術館2階の「北斎展示室」では、春朗期の《鍾馗図》、為一期の《富嶽三十六景》などを展示します。本展と併せて、北斎の青年期や晩年期の作品をご観覧いただけます。



【参考図4】《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》(永田コレクション) [2025.10/15-11/17展示]